



## The Resilient Health Care Conference / The 8th Resilient Health Care Net Meeting 2019を開催しました



淡路夢舞台国際会議場にて、2019年8月25日から28日にわたり、標記国際会議を開催致しました。医療現場が想定内外の擾乱にうまく対応し、目的を遂行するしくみを解明し、うまくいくことを増やそうというレジリエンス・エンジニアリング理論について、初日に先駆的指導者8名による系統的講義、続く3日間のワークショップではその実践例や最新の研究成果について濃密な意見交換を行いました。デンマークで始まった本会議も8回目を数え、初の日本開催となりましたが、11か国から111名の参加者を得て、白熱した議論と文化交流も含めて有意義な時間を過ごしました。

## 第14回医療の質・安全学会学術集会を開催しました

**Enabling Resilient Health Care**  
through Connection, Co-creation and Innovation

**第14回 医療の質・安全学会学術集会**  
The 14th Annual Congress of Japanese Society for Quality and Safety in Healthcare

**レジリエンスの探求**  
～つながり、共創、イノベーション～

2019年  
会期 **11月29日(金)・30日(土)** 会場 **国立京都国際会館**  
大会長 **中島 和江** (大阪大学医学部附属病院 中央クオリティマネジメント部 教授)  
副大会長 **中村 京太** (徳島大学医学部附属病院 医療センター 医療安全管理学) | **滝沢 敦子** (聖高大学大学院医学系研究科 医療の質・安全学講座)

国立京都国際会館にて2日間にわたり、第14回医療の質・安全学会学術集会を主催致しました。

メインテーマは「**レジリエンスの探求**」で、レジリエンス・エンジニアリングの世界的権威であるエリック・ホルナゲル教授をお迎えし、今後の医療安全について学際的な議論がなされました。

本院からは木村正病院長、澤芳樹心臓血管外科教授、西田幸二眼科教授、猪阪善隆腎臓内科教授、松村泰志医療情報部長、武田理宏医療情報部副部長、吉田健史集中治療部助教、越村利恵看護部長、奥田真弘薬剤部長、前田育宏医療技術部長にご登壇いただきました。また、医師、看護師、薬剤師、臨床工学技士等、院内の多くの職種の方々から多数の演題のご発表をいただきました。

参加者3,785名、一般演題数553演題と過去最多となり、新しい医療安全のアプローチであるレジリエンス・エンジニアリングが国内に広がりつつあることが実感されるものでした。